

平成30年度

河川名	地点	水素イオン濃度			生物化学的酸素要求量			浮遊物質			溶存酸素量		
		PH		年平均	BOD		年平均	SS		年平均	DO		年平均
		月			月			月			月		
神田川	久保前橋 (C類型)	5	8.0	8.2	5	0.8	1.0	5	1	1.7	5	9.7	11.5
		9	8.1		9	1.5		9	1.0		9	10.0	
		11	8.0		11	1.4		11	2.0		11	10.4	
		1	8.2		1	0.5		1	2.0		1	13.0	
	高戸橋 (C類型)	5	6.9	7.0	5	1.2	1.8	5	1.0	1.0	5	8.7	8.7
		9	6.9		9	0.5		9	1.0		9	8.0	
		11	7.2		11	1.8		11	1.0		11	8.8	
		1	7.1		1	3.1		1	1.0		1	9.4	
		5	7.1		5	1.5		5	1.0		5	7.9	
		9	7.2		9	1.0		9	1.0		9	7.8	
妙正寺川	四村橋 (B類型)	11	7.4	7.1	11	1.1	1.4	11	1.0	1.3	11	8.3	8.1
		1	7.0		1	1.7		1	2.0		1	8.4	

※計測値未満の数値については、計測の下限値を用いて平均値を計算しています。

各項目の解説

水素イオン濃度 (PH)

水の酸性、アルカリ性を示す指標。0から14の間の数値で表現されています。PHの数値が7だと中性、7から小さくなるほど酸性が強くなり、7から大きくなるとアルカリ性が強いことを表しています。

環境基準 6.5～8.5

生物化学的酸素要求量 (BOD)

微生物が水中の汚れ(有機物)を食べる(酸化分析)時に必要とされる酸素の量をもって表したものです。値が大きくなるほど河川が汚れているということを表しています。

環境基準 3mg/ℓ以下(B類型)5mg/ℓ以下(C類型)

浮遊物質 (SS)

水中に浮遊している不溶性の物質。水の濁りの原因となる。光の透過を妨げ、河底に堆積すると河底の生物にも悪影響を及ぼします。

環境基準 25mg/ℓ以下(B類型)50mg/ℓ以下(C類型)

溶存酸素量 (DO)

水中に溶解している酸素の量です。1気圧のもとで20度の清水には約9mg/lの酸素が溶け込みます。気圧、水温などによっても数値は変動します。また、日中、水中植物の光合成が行われるとDOは高くなります。

環境基準 5mg/ℓ以上